

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成27年度終了時点（平成28年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、前計画から引き続き平成27年3月に認定を受けた新計画に基づいて、「回遊性の向上」、「商業・サービス業の活性化」の二つの目標を掲げ、各事業に取り組んでいるところである。

本市の特徴である観光業のさらなる活性化に向けて、歴史的建造物やその周辺施設の整備を着実に実施してきたことで、本市を訪れる観光客は増加を続けている。その結果、観光資源が豊富な北部地域では多くの観光客により賑わいを見せている。また、商業施設が集積している南部地域には買い物客が多く集まり、北部地域とは違った賑わいを見せている。特に、平成27年3月に整備が完了したウェスタ川越は、文化芸術振興・市民活動拠点として多くの方に利用され、川越駅西口の新たな拠点としての効果が表れているところである。

今年度は、「本川越駅西口開設」と「(仮称)本川越西口駅前通り線」の本川越駅周辺事業が完了し、西武新宿線本川越駅と東武東上線川越市駅間の連絡に係る時間、距離が約半分に短縮され、両駅利用者の利便性や安全性の向上が図られた。なお、川越市駅は、東武東上線の利用者にとって、北部の観光地に最も近い駅である。今後、本川越駅周辺整備事業と本川越駅から北部地域へ至る中央通りの整備が進むことで、歩行環境が改善され、回遊性の向上が見込まれる。そのため、本計画の課題となっている結節地域への歩行者の誘導に効果が表れると考える。

また、新計画から新たに加えられた区域に位置し、県道川越日高線から成田山門前を経て喜多院の北の入口へと至る通りである「歴史的地区環境整備街路(喜多院門前通り線)」の整備が完了した。喜多院は、本市観光アンケート調査によると、蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁に次ぐ、観光客の立ち寄り観光地点となっている。本事業により電線が地中化され、また、道路が美装化されたことで、景観上の魅力が高まり、さらなる集客が期待される。

本市の中心市街地は、南北に細長く形成されており、多くの歩行者等も南北に通行している。このような地理的な特性の中で、本川越駅周辺や喜多院周辺のように、中心市街地の区域の東西の整備が進むことで、歩行者等の回遊性の向上に大きく寄与している。

2. 平成27年度の実施等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成27年度の中心市街地の概況として、中心市街地南部では、年度当初に川越駅西口の新たな拠点施設であるウェスタ川越の本格的な運営が始まり、年度末には本川越駅西口が開設された。これにより、拠点施設や駅を中心とした新たな賑わいの創出が期待される。

一方、観光客で賑わう中心市街地北部では、外国人観光客が増えていることから、インバウンドへの対応として多言語案内や情報発信等のソフト対策の充実が望まれる。

当協議会では、「中心市街地の交通問題」、「空き店舗対策の1つとして、子育て支援施設での活用」、「学生の意見・若者の感覚を吸い上げる機会の創出」など各種構成団体からさまざまな意見をいただいているところである。協議会では大きな理念、枠組みの中で議論を行い、具体的な方向性を見出し、それを各種構成団体や分科会、行政などの各主体やそれぞれの主体の連携体が行うことにより、実効性を高めて中心市街地の活性化を図りたい。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
回遊性の向上	歩行者・自転車通行量 (平日・休日の平均)	91,882 人 (H26)	110,000 人 (H31)	85,104 人 (H27.5)	—	①
	観光客の立ち寄り観光 地点数	4.27 か所 (H25)	4.50 か所 (H31)	4.43 か所 (H27.5)	—	①
商業・サービス業の活性化	空き店舗数	74 店舗 (H24)	64 店舗 (H31)	83 店舗 (H27)	—	③

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

(1) 歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）について

指標地点の平日・休日の平均は、85,104 人となり、基準値 91,882 人を下回る結果となった。ただし、平日を見ると 14,378 人（22.7%）増加している。特に川越駅西口の増加が著しく、本格的に運営が始まったウェスタ川越の効果によるものと考えられる。一方、休日を見てみると 27,934 人（23.2%）減少しており、こちらも川越駅西口は増加しているが、それ以外の地点では減少している。

休日の減少については、計測日の午前中の天候があまり良くなく、出足が鈍かったことなどが考えられるが、街中の状況などが詳細には分からず、具体的な理由の特定が困難なことから、次年度以降、街中の状況把握にも努める必要がある。このような中で、要因の 1 つを挙げるとすれば、隣接市に大規模複合商業施設がオープンし、計測日がオープン日と近かったことから、近隣からの観光客や買い物客、中心市街地内に居住する住民などが、そちらの施設へ流れたものと考えられる。

指標に関連する事業は概ね予定どおり進んでおり、平日は約 20%の伸びがあることから、目標達成は可能であると見込まれる。

(2) 観光客の立ち寄り観光地点数について

立ち寄り観光地点数の指標については、基準値を 0.16 か所上回る結果となった。本市の代表的な観光地点である「蔵造りの町並み」、「時の鐘」、「菓子屋横丁」の 3 地点は、観光客の 90%以上が訪れており、いずれの地点も前年度より増加している。また、約 5%増加した氷川神社では、新規のイベントが要因となって観光客が増加したと考えられる。

関連事業である川越市産業観光館（小江戸蔵里）管理運営事業や旧川越織物市場保存整備事業では、それぞれの施設を活用したイベントなどにより賑わいの創出を図っているところである。

事業は概ね予定どおりであり、目標達成は可能であると見込まれる。回遊性の向上に関連する事業を継続して実施することで、「蔵造りの町並み」など、立ち寄り

観光地として上位となっているまとまった3地点以外への誘導を目指す。

(3) 空き店舗数について

空き店舗数については、83店舗となり基準値よりも空き店舗が増える結果となった。地域別に見ると北部地域での増加が目立ち、観光地として人は集まっているものの、地域の外れであったり、裏通りに入ると空き店舗が多い状況である。その他の地域でも全体としては空き店舗が増加しているが、個々の商店会単位では減っているところもある。空き店舗の減少要因については、空き店舗から駐車場や住宅へと用途が変わるなど、賑わいに結びつかないものもあるが、一部の商店会では区画整理事業等のエリア価値向上による空き店舗の解消や新規出店も見られる。

空き店舗の増加傾向は改善されていないが、空き店舗対策事業などもあり、一部の商店会では効果が表れていることから、引き続き関連事業を実施することで、目標達成は可能と見込まれる。

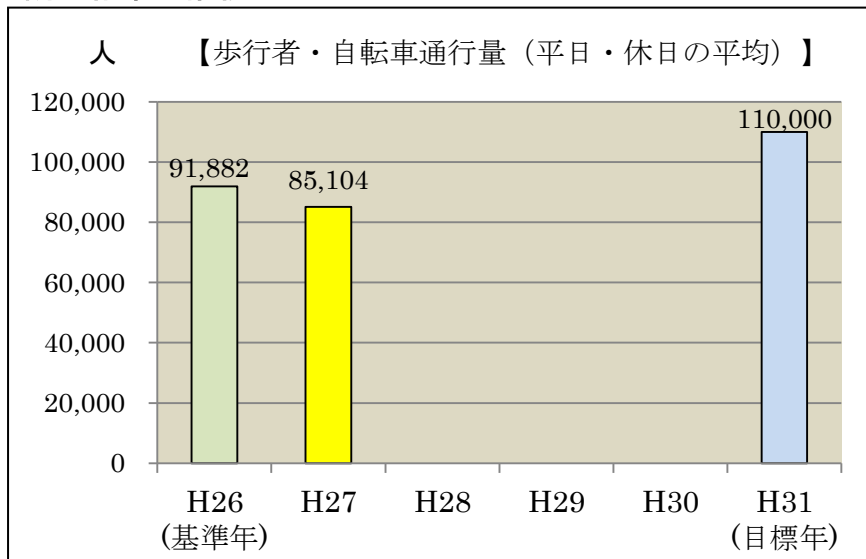
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

今年度が初年度となる計画のため、前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）」※目標設定の考え方基本計画 P56～P61 参照

●調査結果の推移



年	人
H26	91,882 (基準年値)
H27	85,104
H28	—
H29	—
H30	—
H31	110,000 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行者、毎年5月下旬の平日及び休日の8地点において午前10時から午後7時までの毎時00分から15分及び30分から45分の各15分間の通行量を計測した数値を2倍し、1時間当たりの通行量を推計

※調査月：平成27年5月

※調査主体：川越市

※調査対象：中心市街地内8地点の歩行者及び自転車の通行量

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 5-2 川越市文化芸術振興・市民活動拠点施設運営管理事業（川越市）

事業完了時期	平成27年度から【実施中】
事業概要	ウェスタ川越において、市民や近隣市町住民の芸術文化活動の拠点として、良質な鑑賞機会や発表の場の提供、市民の自主的な学習活動の支援、生涯学習の場と機会の提供、男女共同参画に関する各種講座や相談業務等を実施し、これらにより地域住民の活動・交流を促進して、賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	川越駅西口の新たな拠点として運営が始まり、今までにはない人の流れが生まれるなど、事業による集客効果が表れている。

②. 7-1 旧鶴川座保存活用事業（川越市、民間事業者、商店街等）

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	旧鶴川座は、明治期に建てられ、大衆娯楽の変遷に合わせてさまざまな用途で利用され、長年にわたり市民から親しまれてきた。閉館後は、この界隈の商店街の空洞化の象徴となっていることから、活性化の拠点として再生し、この界隈に賑わいと活力の創出を図る。
事業効果及び進捗状況	旧鶴川座の活用が周辺への賑わいにつながるように、地域の方々と活用に向けた検討を進めている。

③. 7-6 旧川越織物市場保存整備事業（川越市）

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	旧川越織物市場は、明治後期に建築された、当時の市場形状を現在に残

	す全国的にも希少価値の高い建造物である。本施設の立地は、基本計画の課題となっている結節地域に位置し、周辺には空き店舗が点在している。本施設は新しい価値を生み出す文化創造のためのインキュベーション機能や来街者も気軽に憩える交流休憩機能を有する拠点施設として整備し、このエリアの賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	賑わいの拠点となるよう、整備後の状況を想定しながら、暫定的な公開イベントを実施し、賑わいの創出を図っている。 イベント回数 10回 イベントによる来場者数 4,133人

④. 7-10 川越市産業観光館（小江戸蔵里）管理運営事業（㈱まちづくり川越）

事業完了時期	平成 22 年度から【実施中】
事業概要	地域ではぐくまれた食や特産物の提供、各種イベントの企画・運営、市民の文化活動の場の提供、地域情報・観光情報の発信等を行い、市民をはじめ観光客、買物客等の目的地となりうる施設として運営し、賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	広場を含めた自主イベントでは、前年度以上の企画を実施したことで、参加者、売上ともに前年度を上回る実績となった。また、バスによる来客が順調に増加しており、賑わいの創出に寄与している。 自主イベント企画数：149 企画(前年+14 企画) 自主イベント参加者数：133,367 人(前年+32,712 人) 自主イベント年間売上：19,193 千円(前年+1,527 千円) バス来場数(介護含む)：525 台(前年+138 台) バスによる来場者数：11,585 人(前年+2,904 人)

⑤. 4-7 伝統的建造物群保存地区保存整備事業（川越市）

事業完了時期	平成 12 年度から【実施中】
事業概要	伝統的建造物群保存地区の保存整備を図るため、伝統的建造物の保存修理に対して費用の助成を行うとともに、伝統的な建造物の個別調査を実施し、具体的な修理方法の検討を行う。
事業効果及び進捗状況	本年度は、伝統的建造物4件の修理が行われ、魅力ある町並みの保存、整備が行われ、北部地域は観光客による賑わいを見せている。

⑥. 7-38 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの推進（川越市）

事業完了時期	平成 26 年度から【実施中】
事業概要	2020 年東京オリンピック競技大会のゴルフ競技が市内で開催予定となっていることから、ハード・ソフトの両面の整備により、「まちの顔」である中心市街地の魅力を高め、国内外からの観光客の誘客を図る。
事業効果及び進捗状況	大会の開催に向けた機運の醸成を図るため、ウエスタ川越を会場として、オリンピックコンサート in 川越及びオリンピックレガシー講演会を開催した。また、大会を契機とした市の活性化を図ることを目的として、ANA 国際線への記事の掲載及びプロモーション映像の配信、台湾やタイで開催された旅行博への出展による PR など、外国人観光客の誘致に向けたさまざまな事業に取り組んでいる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均については、前年である平成 26 年の基準値を約 5,000 人下回る結果となった。平日だけを見ても、14,378 人(22.7%)増加して

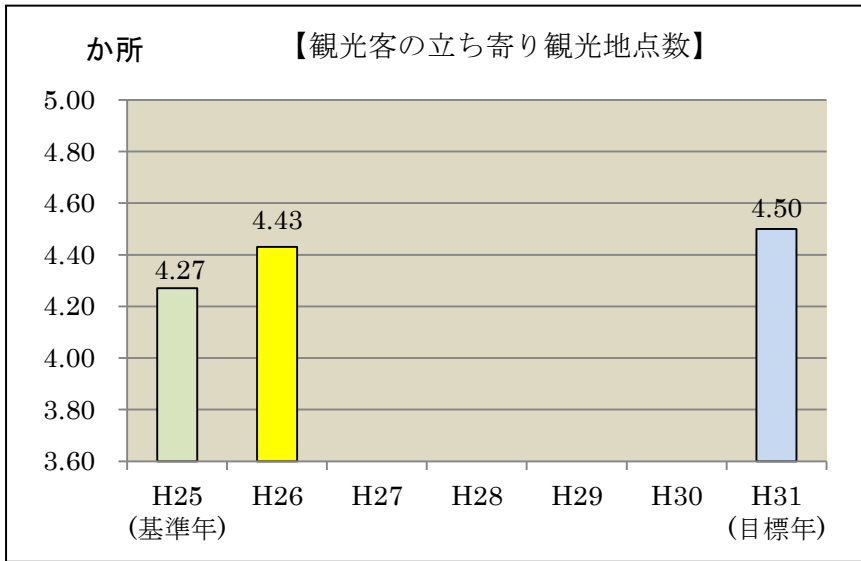
おり、指標としている8地点の内7地点は増加している。特に川越駅西口歩行者デッキは大幅に増加しており、本格的に運営が始まったウエスタ川越の効果によるものと考えられる。基準値を下回った原因となる休日については、27,934人(23.2%)の減少となっており、指標地点8地点の内7地点が減少している。

休日の減少については、計測日の天候が曇り後晴れで、午前中の出足が鈍かったことなどが考えられるが、街中の状況が詳細には分からず、具体的な理由の特定が困難なことから、次年度以降、街中の状況把握にも努めていく必要がある。このような中で、要因の1つを挙げるとすれば、本市に隣接する市において大規模複合商業施設がオープンしたことが挙げられる。当該施設は、開業当初、週末に1日平均で5万人が訪れており、そのオープン日と通行量の計測日が近く買い物客が集まる南部地域はこの影響を受けたものと考えられる。なお、観光客が多い北部地域は、南部地域と異なり商業施設のオープンによる影響は受けにくいと考えられる。ただし、本市の観光アンケート調査結果によると、本市を訪れる観光客の8割以上が関東各県から出発しており、埼玉県内市町村と東京都を出発地とする観光客のみで見ても56%にも上ることから観光客の動向にも影響があったものと考えられる。指標に関連する事業は、概ね予定どおり進んでおり、平日は20%を超える伸びがあることから、目標達成は可能であると見込まれる。

今後については、各事業実施主体と連携を図るとともに、中心市街地活性化協議会へは適宜、報告及び協議を行い、掲載事業の推進を図る。そして、事業の進捗に応じて、基本計画の見直しを行い、掲載事業の追加、修正を行っていく。継続して実施するウエスタ川越や小江戸蔵里の運営などの各種ソフト事業については、情報発信などの充実を図っていく。

「観光客の立ち寄り観光地点数」 ※目標設定の考え方基本計画 P61～P64 参照

●調査結果の推移



年	箇所
H25	4.27 (基準年値)
H26	4.43
H27	—
H28	—
H29	—
H30	—
H31	4.50 (目標値)

※調査方法：観光アンケート調査（観光客への聴き取り調査）

※調査月：平成26年4月から平成27年3月実施、5月とりまとめ

※調査主体：川越市

※調査対象：観光客

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 7-1 旧鶴川座保存活用事業（川越市、民間事業者、商店街等）

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	旧鶴川座は、明治期に建てられ、大衆娯楽の変遷に合わせてさまざまな用途で利用され、長年にわたり市民から親しまれてきた。閉館後は、この界隈の商店街の空洞化の象徴となっていることから、活性化の拠点として再生し、この界隈に賑わいと活力の創出を図る。
事業効果及び進捗状況	旧鶴川座の活用が、賑わいに欠ける結節地域での新たな拠点となるように、地域の方々と活用に向けた検討を進めている。

②. 7-6 旧川越織物市場保存整備事業（川越市）

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	旧川越織物市場は、明治後期に建築された、当時の市場形状を現在に残す全国的にも希少価値の高い建造物である。本施設の立地は、基本計画の課題となっている結節地域に位置し、周辺には空き店舗が点在している。本施設は新しい価値を生み出す文化創造のためのインキュベーション機能や来街者も気軽に憩える交流休憩機能を有する拠点施設として整備し、このエリアの賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	賑わいの拠点となるよう、整備後の状況を想定しながら、暫定的な公開イベントを実施し、賑わいの創出を図っている。 イベント回数 10回 イベントによる来場者数 4,133人

③. 7-10 川越市産業観光館（小江戸蔵里）管理運営事業（㈱まちづくり川越）

事業完了時期	平成22年度から【実施中】
事業概要	地域ではぐくまれた食や特産物の提供、各種イベントの企画・運営、市民の文化活動の場の提供、地域情報・観光情報の発信等を行い、市民をはじめ観光客、買物客等の目的地となりうる施設として運営し、賑わいの創出を

	図る。
事業効果及び進捗状況	<p>広場を含めた自主イベントでは、前年度以上の企画を実施したことで、参加者、売上ともに前年度を上回る実績となった。また、バスによる来客が順調に増加しており、賑わいの創出に寄与している。</p> <p>自主イベント企画数：149 企画(前年+14 企画)</p> <p>自主イベント参加者数：133,367 人(前年+32,712 人)</p> <p>自主イベント年間売上：19,193 千円(前年+1,527 千円)</p> <p>バス来場数(介護含む)：525 台(前年+138 台)</p> <p>バスによる来場者数：11,585 人(前年+2,904 人)</p>

④. 4-8 歴史的地区環境整備街路（立門前線）（川越市）

事業完了時期	平成 32 年度【未】
事業概要	歴史的な建造物の町並みが続く地区において、町並みとの調和がとれ、景観に配慮した道路整備を行うことによって、地域の魅力の向上や居住環境を高めるとともに、観光客の回遊性を高める。
事業効果及び進捗状況	立門前線の沿線に立地する旧鶴川座、旧川越織物市場の整備方針や整備スケジュールなどを考慮しながら、地元関係者をまじえて検討を行っている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

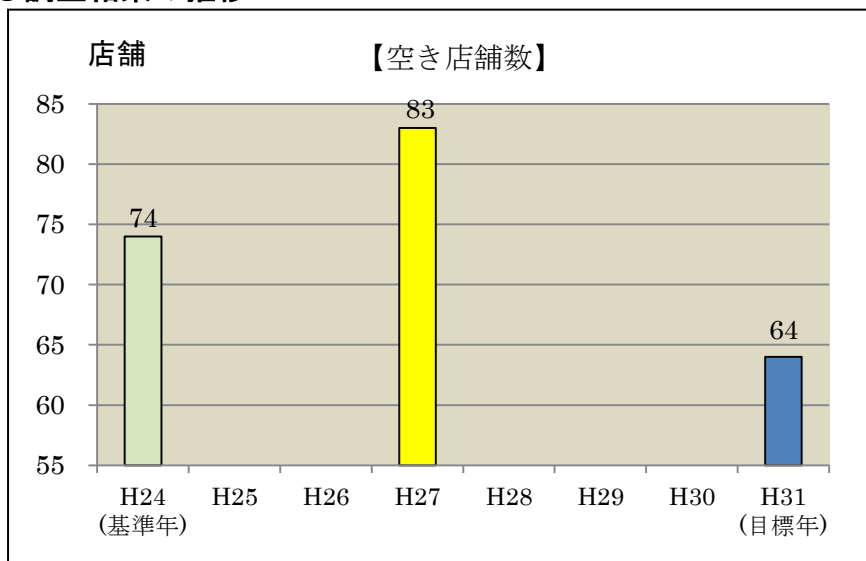
立ち寄り観光地点数については、平成 25 年度基準値の 4.27 か所から平成 26 年度の 4.43 か所へと 0.16 か所増える結果となった。本市の観光エリアである北部地域に位置する「蔵造りの町並み」、「時の鐘」、「菓子屋横丁」の 3 地点では観光客の 90%以上が訪れており、これらの地点はいずれも増加している。これらの地点以外では、氷川神社が約 5%増加しており、新たなイベントである「川越氷川神社縁むすび風鈴」によるものと考えられる。

関連事業である川越市産業観光館（小江戸蔵里）管理運営事業では、着実に来館者、売上を伸ばしており、また、結節地域に位置する旧川越織物市場保存整備事業では、暫定的な公開イベントを実施し、賑わいの創出を図っているところである。数値は伸びており、関連事業は概ね予定どおりに進められていることから、目標達成は可能であると見込まれる。

今後については、各事業実施主体と連携を図るとともに、中心市街地活性化協議会へは適宜、報告及び協議を行い、掲載事業の推進を図る。そして、事業の進捗に応じて、基本計画の見直しを行い、掲載事業の追加、修正を行っていく。本指標に直接影響を与える各ハード事業については、事業が完了するまでに時間を要するものであることから、適切な進捗管理を行うとともに、回遊性を向上させることで、蔵造りの町並み周辺のまとまった観光地点以外への誘導について検討する必要がある。

「空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P64～P66 参照

●調査結果の推移



年	店舗
H24	74 (基準年値)
H25	-
H26	-
H27	83
H28	-
H29	-
H30	-
H31	64 (目標値)

※調査方法：現況調査

※調査月：平成 27 年 12 月

※調査主体：川越市

※調査対象：中心市街地内商店街

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 7-6 旧川越織物市場保存整備事業（川越市）

事業完了時期	平成 30 年度【未】
事業概要	旧川越織物市場は、明治後期に建築された、当時の市場形状を現在に残す全国的にも希少価値の高い建造物である。本施設の立地は、基本計画の課題となっている結節地域に位置し、周辺には空き店舗が点在している。本施設は新しい価値を生み出す文化創造のためのインキュベーション機能や来街者も気軽に憩える交流休憩機能を有する拠点施設として整備し、このエリアの賑わいの創出を図る。
事業効果及び進捗状況	賑わいの拠点となるよう、整備後の状況を想定しながら、暫定的な公開イベントを実施し、賑わいの創出を図っている。 イベント回数 10回 イベントによる来場者数 4,133人

②. 7-2 チャレンジショップ事業（株まちづくり川越）

事業完了時期	平成 25 年度から【実施中】
事業概要	中心市街地商店街の空き店舗を借り上げて、チャレンジショップとして出店を希望する新規開業者等に貸し出し、経営指導等を行い、独立開業を支援していく。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度の実績として、チャレンジショップへの出店は3件あった。

③. 7-12 空き店舗対策事業（川越市）

事業完了時期	平成 25 年度から【実施中】
事業概要	空き店舗情報登録制度により登録された空き店舗を利用した事業に関して、店舗改修費や賃借料を補助することにより、中心市街地に存在する空き店舗の減少を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度の本事業の利用実績としては、中心市街地の区域内で5件の利用があった。

④. 7-15 経営力向上・創業等支援（川越商工会議所、パートナー機関）

事業完了時期	平成 20 年度から【実施中】
事業概要	地域力連携拠点である商工会議所が窓口となり、様々な分野のパートナー機関と連携し、中小企業者の経営力向上、新事業展開、事業承継等の課題解決に向けた支援を行う。また、創業希望者を対象とした研修等を実施する。
事業効果及び進捗状況	経営支援ネットワーク事業を通じて、専門家派遣・専門家相談事業を随時、実施した。また、創業者を対象に創業スクールを9月12日から全12回開催し、第二創業者を対象にした第二創業スクールを9月18日から全4回開催した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

空き店舗数については、基準値である平成 24 年度の 74 店舗から、平成 27 年度の調査では 83 店舗へと 9 店舗、空き店舗が増加する結果となった。地域別に見るとすべての地域で空き店舗は増えているが、特に北部地域での増加が目立っている。観光地として多くの人が集まる地域でありながら、観光地の外れであったり、裏通りに入ると空き店舗が多い状況である。地域ごとでは、すべての地域で増加している空き店舗であるが、個々の商店会単位で見ると減っているところもある。空き店舗の減少については、駐車場や住宅へと用途が変わったことによる減少など、賑わいに結びつかないものもあるが、中央通りでの区画整理事業や、各商店会が参画するイベントなどの取組により、エリア価値が高まったことで一部の商店会では空き店舗の解消や新規出店が見られたと考えられる。

今後については、空き店舗対策事業など実績のある事業を継続して実施するとともに、中心市街地活性化協議会へは適宜、報告及び協議を行い、掲載事業の推進を図る。そして、事業の進捗に応じて、基本計画の見直しを行い、掲載事業の追加、修正を行っていく。空き店舗の減少のためには、情報収集・情報提供とともに、各種支援が必要であることから、各事業実施主体が現在取り組んでいるさまざまな取組をリンクさせることで、相乗効果を上げていきたい。また、一時的な空き店舗の減少にとどまることなく、出店者が安定的な経営を続けられるように、引き続き、各事業に取り組む、目標達成に向けて努力していく。